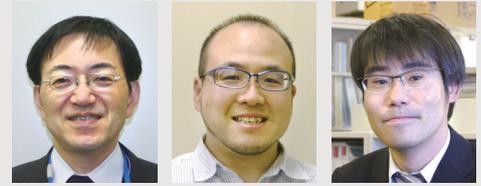


## 河川構造物維持管理の 効率化・高度化へ向けた 取り組み



河川研究部 河川構造物管理研究官 杉原 直樹  
河川研究室 主任研究官(博士(工学)) 森 啓年 研究官 福原 直樹

(キーワード) 河川構造物管理研究タスクフォース、戦略的維持管理、産官学連携

### 1. 河川構造物管理研究タスクフォース

国総研では、2012年4月から(独)土木研究所(土研)とともに河川に適した構造物マネジメント技術をフォローする研究担当者の集団として河川構造物管理研究タスクフォース(以下、「河川構造物TF」という。)を設置し、①技術・マネジメントの両面において河川維持管理をより高度化させること(発展)を目指した研究や技術的支援、②効果的・効率的な河川維持管理に係る最新の技術を現場に導入し、根付かせること(導入・定着)を目指した技術相談やセミナーの開催などの活動を行っている。

### 2. 平成26年の活動状況

河川構造物TFは、河川構造物の維持管理の基本となる点検・モニタリングに関して、効率化・高度化に向けた技術開発及び評価の基準の作成に向けた取り組みに重点を置いて活動を行った。国土交通省は点検・モニタリングの効率化・高度化に向けてロボット技術等の新技術の導入を検討している。特に河川・ダム分野においては水中箇所を目視点検の代替が出来る装置等の開発・導入、河川堤防のモニタリング技術の実用化を達成目標としている。河川構造物TFは、維持管理のニーズと技術開発のシーズのマッチングを図り、開発される技術が現場で実際に役立つものとなるように技術的な助言を行っている。また現場技術者が活用できる点検・診断手法を開発するため、昨年度に引き続き樋管等構造物周辺の堤防の空洞化状況、コンクリート部材や鋼矢板護岸の劣化状況等の明確化、非破壊検査技術の適用性把握に関して土研に委託して研究を進めた。さらに、昨

年行った点検マニュアルの検討とその後の試行を踏まえ、点検結果の評価の基準・要領の作成に向けた検討に関して技術的支援を行った。この検討の参考とするため、英国等海外のインフラの維持管理手法に関する情報収集を行い、我が国における維持管理手法との違いの分析も行った。技術相談に関しては、地方公共団体からも9件の相談が寄せられた。また、2014年2月27日に、産官学が連携して維持管理に関する最新情報の交換を行う場となる河川構造物管理研究セミナーを「海外の維持管理手法とデータベース」をテーマに開催し、約100名の参加を得て、熱心な討議が行われた。河川構造物TFの活動は詳しくはHPをご覧ください。<sup>1)</sup>



図 河川構造物管理研究セミナー

### 3. 今後の展開

河川構造物TFは、今後とも国土交通本省、地方整備局と密に連携して、産官学の情報交換等も促すなど、河川維持管理の効率化・高度化に向けた取り組みを積極的に展開していく。

#### 【参考】

1) 河川構造物TFのホームページ  
<http://www.nilim.go.jp/lab/fag/index.html>